科目ナンバリング	U-LAS20 10001 SB48						
授業科目名 <英訳>	英語リーディング ER30 1S5 English Reading			担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 西本　希呼		
群	外国語科目群	分野(分類)			使用言語	日本語	
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（外国語）（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	月1	配当学年	1回生	対象学生	全学向

[技能領域]

アカデミックリーディング

[授業の概要・目的]

本授業の目標は、高校までの詰め込み英語学習から一旦離れ、英語で書かれた学術記事を通じて、科学の楽しさを体感し、学術英語技能と科学のセンスを研ぎ澄ますことです。授業では講師と学生との双方向コミュニケーションを重視しています。指定教科書の他に、毎回小さな議題を設定するので、自分なりの意見や主張を考え、それを他者にうまく伝える工夫をしましょう。相手の意見にも耳を傾けましょう。そうすることで、色んな興味関心や背景を持つ学生と議論することで知の相乗効果を図ります。

[到達目標]

この授業では、(1)英語で書かれた学術記事の購読を通じて、学術英語に慣れ、それを使いこなす技術を習得すること、(2)日常生活の小さな疑問や出来事を、異なる価値観や様々な学術領域から考察する能力を培うこと、（3）日本語と英語の両方で自分の伝えたいことを他者にわかりやすく伝える能力（プレゼンテーション能力）を養うことの３点を主な目標とします。授業を通じて、学術の器と人間の器の両面を広くするために切磋琢磨していきます。

[授業計画と内容]

授業では教科書として、Steven Strogatz (著)のSync: The Emerging Science of Spontaneous Orderを読んで皆で議論していきます。高度な内容ですが、とても読みやすい英語で書かれています。ウォーミングアップとして関連する英語の動画や音声を授業の冒頭の５分から10分くらいに視聴します。黙々と読んで訳す授業ではなく４技能を駆使したアクティブな授業です。

必要に応じて適宜、日本語や英語の補助資料を配布します。

(1) Introduction授業オリエンテーション、大学で学ぶ英語とは、この授業で使う教科書について
(2) Chapter 1 Fireflies and the Inevitability of Sync「同期現象とは？」、学術英語記事の特徴、序論や導入部で使われる学術英語
(3) Chapter 1続き「身近な同期現象」、学術英語でよく使う接続詞
(4) Chapter 2 Brain Waves and the Conditions for Sync「時間の矢」、「概日リズム」、「周期」、プレゼンテーションをはじめるときに使う英語表現、話題を始めるときにより魅力的に視聴者を惹きつけるための英語作法
(5) Chapter 3 Sleep and the Daily Struggle for Sync「睡眠を科学する」、自分の意見を伝えるときの英語表現
(6) Chapter 3の続き、プレゼンテーションで他人に意見を伺うときの英語表現
(7) Chapter 4 The Sympathetic Universe
(8) Chapter 5 Quantum Choruses、英語で主観的意見と客観的見解を区別して伝える
(9) Chapter 6 Bridges「身近な数理科学」、「日常生活の中にある科学と芸術」、自分の伝えたいことを英語で表現する

英語リーディング ER30(2)へ続く↓↓↓

英語リーディング ER30(2)

(10) Chapter 7 Synchronized Chaos,「混沌と秩序」これまで出てきた自然科学の英語の復習、同じ議題について書かれた異なる学術記事を読み比べる
(11) Chapter 続き、日英で５分間プレゼンテーション、議論
(12) Chapter 8 Sync in Three Dimensions、日英で５分間プレゼンテーション、議論
(13) Chapter 9 Small-World Networks
(14) Chapter 10 The Human Side of Sync
(15)フィードバック

[履修要件]

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

[成績評価の方法・観点]

5回以上欠席した場合は成績評価の対象としない。
平常点60%、期末レポート試験40%
授業中の自由で積極的な発言と、自ら主体的に調べて学ぶ姿勢を評価します。学術英語技術を習得する授業なので、必要に応じて、より適切な英語の発音やアクセント、イントネーション、表現に授業内では誘導していきますが、成績評価では、英語の発音の正確さや流暢な英語力だけではなく、むしろ予習、復習そして積極性や主体性を重視します。
インターネットでの情報検索は上手に使い、検索して得る情報と、自分の中に吸収して自身の血や肉となる知識や技術とは分けて考えましょう。

[教科書]

Steven Strogatz 『The Emerging Science of Spontaneous Order, Penguin Press Science.』（SYNC,2004）ISBN:9780141007632
配布資料等は授業内で共有いたします。

[参考書等]

（参考書）
ジョージ ガモフ 『1,2,3…無限大』（白揚社,2004）ISBN:4826901216
森　毅 『線型代数―生態と意味』（日本評論社,1980）ISBN:4535781117
蔵本　由紀 『非線形科学 同期する世界』（集英社,2014）ISBN:4087207374

（関連ＵＲＬ）

http://bizboard.nikkeibp.co.jp/academic/latest_list/mag_SCI.html(日経サイエンス（京都大学IDで閲覧できます）)
https://www.newtonpress.co.jp/newton.html(科学雑誌ニュートンシリーズ)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業の予習として、わからない英単語や用語は事前に調べておいてください。授業では双方向コミュニケーションを重視していますので、積極的に発言しましょう。
●予習や復習は原則ですが、予習ができなかった週でも、技能の授業は出席して得るものがあります。前週前夜体調不良等で予習ができなかった日は、授業時間に集中して積極参加し、知的な刺激を得て帰るようにしましょう。
●和文でも英文でもどちらでも良いので、週に１回何か科学記事に目を向けてください。数行でも数分でも構いません。
●「英語が苦手」「英語の発音は得意ではない」「英語はあまり喋れない」「リスニングは苦手」と思っていても、問題ありません。学術英語は訓練すれば誰でも身につけることのできる技術です。

英語リーディング ER30(3)へ続く↓↓↓

英語リーディング ER30(3)

[その他（オフィスアワー等）]